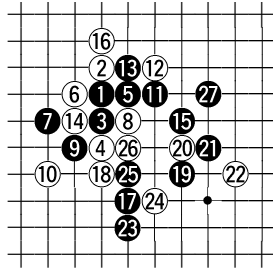


松月定石の一研究 (2)

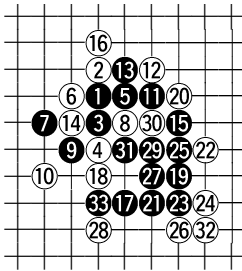
九段 河村典彦

【第12図】前回の变化をやっておこう。まずは軽い所から。白16の



反対止めである。これには当然下辺に進出することになるのだが、黒17と惜しげもなくトビ三を打ち、黒19とミセるのがいい手になる。
この手に対し、白20と真ん中を止めれば、黒21、23とこんな所を飛ばず筋で以下黒27までの四三となる。ちよつと盲点になる勝ち方である。

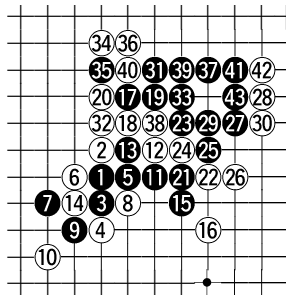
第13図



【第13図】最後の四三を防ぐために白20で剣先を止めておくのは、今度は21と見せ、白22の止めを待って23と引けば勝ちが見えてくる。どちらに止められても勝ちなのだが、白24止めなら以下四追いで、黒31とノリ手を切れるので問題ない。ちなみに、白24を反対も以下四追いである。

白16はもちろん反対で、この研究の主題でもある。前回はその一部の変化を紹介したわけで、すべての変化となれば膨大になる。前回とは違う白20の防ぎから見てみよう。

第14図

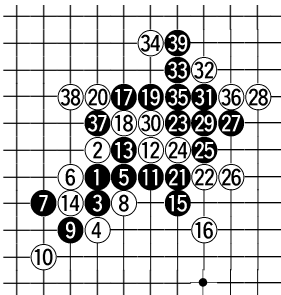


【第14図】この白20も強防である。黒21から追い詰めになるのだが、

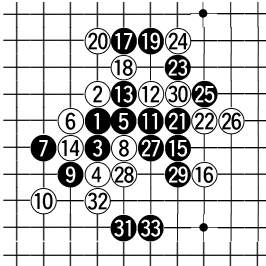
先は長い。ただし、手順に三を引いていけばよいので気は楽である。三の逆止めをしらみつぶしに調べていけばよい。白30まで進んだとき、黒31とミセ手で攻めが継続できるのが強みである。白32から34が一応の抵抗だが、落ちて着いて黒43まで四追いで収束する。

【第15図】白30では狭いがこちらから止めるのがありそうである。

第15図



第16図



それには黒31とフクミを打つのが手筋で、以下黒33と引けばやはり収束する。なお、白26を反対もやはり黒27と引けばよい。

【第16図】こういう時に怖いのが、弱防と思つてやつていない変化である。この場合で言えば白24の外止めである。こんな止めなら楽勝と思つていけると、思わぬ強防だったりする。実際、黒25からどういふ風に打ち進めていけばよいか迷う。やはり黒31が利くのが大き

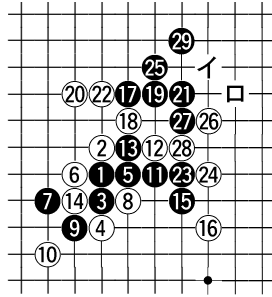
く、何とか黒33まで勝ちが出そうだ。

【第17図】同様に白20の防ぎも黒21と打って以下四追いと思いがち

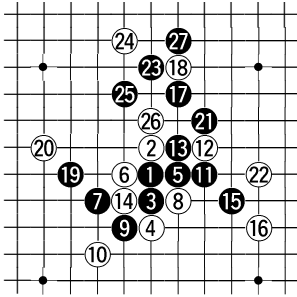
だが、白22止めがある。こういう手も注意しなくてはいけない。この場合は黒23で先手を取れるので落ちて攻めることができる。黒25とフクミ手を打っておけばこれはもう防ぎがない。例えば白26と防いでも黒29と引き、以下イロまでである。

以上で白18と割り込む最強防は前回と今回でほぼ解明したということになる。その他の細かい変化もあるが、各自調べてもらいたい。では、次の防ぎに行こう。

第17図



第18図

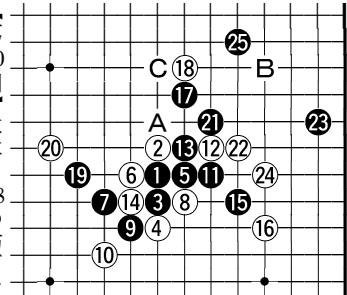


後の四追いは確認してほしい。

【第18図】白18と剣先を止める手も強そうに見える。しかし、二路

下の強防と比較すると割と簡単である。先程までの強防は縦の剣先を止めるというよりは剣先や連を作って攻めを牽制していたからである。黒19と引くのは黒の権利で、白20はどちらに止めても大差はない。続けて黒21と見せれば解決する。例えば白22の止めなら、黒23と引けるので上辺と左右がつながる。黒27以下どちらに止めても四追いになる。ぜひ最

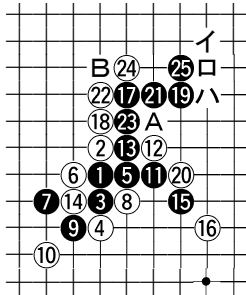
第19図



【第19図】白22の変化もやっておく必要がある。今度は24の剣先が生きているので黒23のミセ手から攻めることができる。黒25で両ミセとなるのだが、離れた剣先を一手でつなぐ両ミセはなぜだか気持ちがいい。また、白22でCの止めも可能性としてはあるが、上図とまったく同じように攻めて問題ない。

【第20図】次は白18の防ぎを考えてみよう。この剣先を止められても、黒は新たに19と剣先を作り、攻めを継続できる。白20はここが

第20図



容易である。

こういう講座で一番の落とし穴は内容を鵜呑みにしてしまうことである。参考にはしてほしいが、ぜひ自分で確認し、身につけていただきたい。ヒントはそこら中に落ちているが、それを拾って自分の物にするかどうかで結果が変わってくる。

最強だが、黒21と引き、白22のノリ手に一旦黒23と切つて、黒25とイロハを含めれば勝ちが見える。白26をどこに止めても容易な黒勝ちである。ぜひ確認してもらいたい。

なお、白20をAと入るのは、黒21と引いて以下四追いとなるし、白22を反対ならA・Bと引いていけば以下